

高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画PT修復班（絵画担当）

○高松塚古墳壁画

1) 壁画の状態確認

修理時に材料を追加した部分、あるいは新規クリーニング作業（紫外線照射、酵素処置等）を施した部分を中心に、修理後の状況について定期的に確認を行っている。7月、11月、2月に状態確認を行った。目視観察とともに測色も行い現時点では色味の大きな変化はなかった。

2) 集中メンテナンス作業の状況確認および打ち合わせ

5月、8月、10月、1月

石材担当と協議を重ねながら、新施設への移動を想定した石材表面保護方法についての検討を進めていきたい。

3) 壁画の修理作業に関する各種データ整理と報告書準備

今後の報告書の刊行に向け、令和4年度は今までの資料の整理を行っている。これらの資料も劣化する可能性のある年数が経過しているため、今後の資料保存方法について検討中である。また、現在、その中でも重要な資料のデジタル化を進めている。

○キトラ古墳壁画

1) 壁画の集中メンテナンス

6月、8月、11月、2月

2) 壁画の「蓋」の作製

木枠を用い、通気性を確保した蓋の作製を行っている。空調の点検時などに塵埃が増加するなどの状況も見られ、蓋の必要性は高いと考えられる。木製の蓋には非帯電性シートを用いて、側面部分は全て開口することとした。生物環境班による現地保存環境下での測定では、試作品において蓋の内部と外部とで温度湿度の差違は確認されなかった。

令和4年度末に納品、運用を開始する。



写真1 作製した壁画の「蓋」